

建築主：日本システムウエア株式会社 多田修人
 設計者：株式会社白江建築研究所 白江龍三
 株式会社ダイナミックデザイン 宮崎光生



アトリウム全景



構造アイソメ図

建築概要

建設地：山梨県東八代郡一宮町市之倉天神窪 707

建築主：日本システムウエア(株)

設計：全体 山梨ITセンター設計JV(建築 (株)白江建築研究所、
 設備 (株)森村設計、造園 (株)あい造園設計事務所)

構造 (株)ダイナミックデザイン

施工：五洋建設(株)

竣工：1997年8月

建築面積：2,158㎡(建物全体3,249㎡)

延床面積・7,420㎡(建物全体8,877㎡)

階数：地上4階 高さ：18,94m

構造：免震構造、鉄筋コンクリート、鉄骨併用

選評

情報処理サービスを行う企業が21世紀の拠点としての施設を計画するに際して掲げた条件は、防犯、耐震のセキュリティや使用面、将来拡張面でのフレキシビリティ、オフィスとしての高い機能性と快適性を確保することなど、多岐にわたっていた。細長いアトリウム棟に平行して接続する同一形状の2つの免震棟は、その上部3層をフレキシビリティのある無柱空間とし、外殻をトラスとする箱形の構造体を1階の4基の基壇上部に設けた免震装置によって支持している。支持点の集約は軽量建物の免震性能を向上させており、最大速度100カイン以上の地震に対しても機能を発揮するよう考慮が払われている。使用性に対して自由度の高いオフィス空間とコンピューター設置空間の実現、これらを支える免震装置の集約化と100カイン無損傷の実現は、この施設の設計コンセプトを具現化するものとして評価できる。さらに、1階が駐車場であり、上層のセキュリティを確保する場であること、およびアトリウム棟を延長して免震棟を追加することによって将来の増築に対応できる配置とされていることは、発注者の意図を明快に実現したものである。建築全体として整合性のある計画の中に免震構造の特長を活かす工夫が合理的に組み込まれており、本表彰制度が期待する作品賞に相応しいものである。

(辻井 剛)

免震化した経緯及び企画設計等

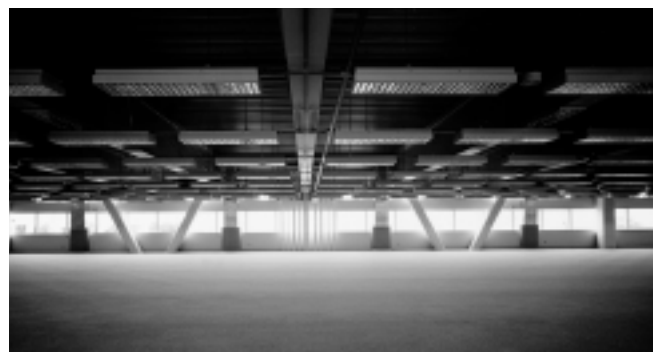
この施設は情報サービス企業のR&Dセンター・データセンターである。設計者選定に当たっては21世紀の企業拠点に相応しい安全性を確保するため、コンピューターセンターを免震構造とする条件付きのプロポーザルを実施した。

建物は業務系の機能を納めたオフィス棟とコンピューター棟を平行に配置し、この2棟を全長70mの細長いアトリウムで繋いでいる。2棟の業務系建物は、支持点を集約してそれぞれ4体の大型免震装置で支えることにより、最大速度100カイン以上の地震動にも無損傷で機能できる高性能免震構造としている。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

低層建物で高い耐震安全性を実現するため、上部構造体3層を利用した外殻トラス構造とし、1棟3,000㎡の業務諸室を4体の大型免震装置で支持している。免震装置を1階基壇の柱頭部に配置し、建物を地上から切り離してセキュリティを確保すると同時に、建物下(1階ピロティ-)に広大な駐車スペースを確保した。この免震構造計画と建築計画の融合により、浮遊感あるダイナミックなデザインが可能となると共に、風景から広大な駐車場を消すことができた。

業務室はフレキシビリティを確保するため各階1,000㎡の無柱空間としている。



1,000㎡の無柱空間



コンピューター棟全景